総務委員会　県内調査活動状況

１　日　　時　　平成２６年１０月３１日（金）

２　出席委員（９名）

委員長　　白壁　賢一
副委員長　　高木　晴雄
委　員　　棚本　邦由　　武川　　勉　　保延　　実　　山下　政樹
　　鈴木　幹夫　　望月　利樹　　安本　美紀

欠　席　　棚本　邦由（消防学校）　　武川　　勉（消防学校）

３　調査先及び調査内容

（１）【消防学校】

○調査内容（主な質疑）

問）　新たに用地を取得したのはどこの部分か。

答）　新たに施設を建てている部分２．５ヘクタールになる。

問）　訓練内容であるが、訓練時間がふえていることにより、講師の増員やその経費がふえると思うがその準備はどうなっているのか。

答）　明年度の予算要求において各消防本部の講師、水難救助や山岳救助の関係の外部講師の報償費及び旅費等について予算要求していく。

問）　外部講師は県外から呼んでくるのか、県内にはいないのか。

答）　水難救助、山岳救助等については、現在施設がないということで、ノウハウが本校の教員にはないことから、基本的な指導要領であるとか安全管理マニュアルといった方針は学校でつくるが、具体的に教育する部分については、外部講師を依頼する。水難救助については、富士五湖消防本部で水難救助隊があるので、その職員を中心に教育をしていく。

問）　御嶽山の噴火があり、富士山のことも言われている。御嶽山にも本県から救助隊が何名か行ったわけであるが、山岳地域であることから、今度新規につくって、専門的知識をできる限り養っていったほうがいいと思っているので、建物だけつくっても仕方ないので頑張ってもらいたい。

答）　消防職員の教育訓練で新設の研修課程が３つあるということであるが、これから山梨の山岳遭難救助もスペシャリストが求められている、また、広域的に点在する集落という山梨の特性を鑑みて、新設は有効であると感じているが、対象に「消防職員（要件あり）」とされているが、この要件を具体的に教えてほしい。

問）　水難救助訓練についてであるが、消防職員を採用するときに、泳げるか、泳げないかということは条件として採用していない。ある程度泳力のある消防職員を対象として水難救助訓

練を行う。
　山岳救助訓練についてであるが、現在の救助課程においては、山岳救助を含めてさまざまな救助訓練をしているが、この研修では山岳救助の経験がある職員を対象としていく。

問）　ある程度経験がある職員を対象に、さらにスペシャリストを養成していくということであるが、年間でどのくらいの人数を見込んでいるのか。

答）　平成２５年度の入校の実績ということで言うと、消防職員の入校実績は延べ４６８人で、ここ数年では平均して５００人前後が入校している。消防団員については、受講者数が延べ８８６人ということで、９００人前後が受講し訓練を受けている。今後、施設が新しくなることからなるべく多くの消防団職員に来ていただき教育訓練の向上に努めていきたい。

問）　地域に住んでいる消防団員の練度を上げていくことが初期消火するためにも非常に有効であると考え期待しているが、地域の消防団員の教育について新しく取り組むものがあるのか。

答）　国においていわゆる消防団新法をつくり、これを受けて教育訓練の指針が昨年度末に改正された。その中で消防団員も大規模災害のときには消防職員と連携して災害の救助、消火に当たらなければならないということで、国で消防団の幹部課程の充実をするため、指揮幹部科で、部長や分団長を中心に新たに大規模災害にあったときの指揮対応能力の向上を強化していくこととなった。東日本大震災で消防団員の方が多く亡くなったことから資機材を充実するため、救助用のエンジンカッター、通信無線などさまざまな装備を消防団にも整備することとなり、各種の装備を備えたポンプ自動車の貸与を受け、今後消防団の幹部課程と災害対応能力の向上に努めていく。あした現場指揮課程の訓練を一日学校で行うことになっている。

問）　宿泊棟には６０人程度が宿泊できるとの説明があったが、平成２６年度の実績で、最初の初任総合教育の入校者数は。

答）　今年度は４６人の入校があった。

問）　来年度の消防職員教育訓練体系表を見ると、初任の教育があり、専科教育、幹部教育、特別教育とあるが、一人の消防職員がいろいろな機会があるとは思うが、消防職員である間、消防学校で何回くらい訓練を受ける機会があるのか。

答）　まず新採用の初任総合教育を受け、各消防本部でそれぞれ救助課、予防課などの部署に配属されることとなり、専科教育として配属された部署に対応した課程を受講することとなる。その後幹部教育として、司令、署長、司令補の幹部教育があり、最低３回は、消防学校に来て研修を受けることとなる。

問）　今までもそうかもしれないが、グランドについても整備しているが、実際に大きな災害が起きたときに、救護、避難などさまざまな活用ができると思うが、どのような活用をするのか検討しているのか。

答）　１ヘクタールという大きなグランドの整備になるので、大災害時の避難場所としても一つの候補として検討をしているところである。

問）　新しい施設ができて、消防職員が何回も通ってくる場所になるが、敷地内に防災安全センターについて、中を見たが時代おくれものも入っているような気がするが、そこについても消防学校とあわせて県民の皆さんにも見てもらえるように、活用できるように中身についても検討してもらいたいが。

答）　防災安全センターにも起震車など古くなっているところもあるので、当然かえたりしている。消防学校がこれだけきれいになっているので、防災安全センターにも来てもらい一緒に体験してもらえるような工夫をしていきたい。

問）　女性の消防隊員について、ここ数年どういう状況にあるのか。また、女性に配慮した施設ということであるが何人くらい入れるのか。また、女性の訓練で女性と男性でどれくらいの差異があるのか、同じようにやっているのか。

答）　今年度の新採用の女性は２人であり、現在県下全体で６人になっている。今回新しく女性用の部屋を用意したが２室で定員が８人になっている。
　今年度２人女性の消防職員が採用されているが、訓練自体は男性職員と同じで、特にメニューを変えているということない。体力錬成にしても同じ距離を走り、鉄棒の懸垂も回数は少ないとは思うが、メニュー変えてはいない。女性の消防職員もロープ渡河やロープを運ぶことも男性職員と同じことをしており、最低限の基礎体力能力は十分養えて到達している。

問）　消防や消防団に女性が進出してきているが、消防に対する位置づけ、認識について、女性がどのような考え方を持っているのか聞いたことがあるか。

答）　初任教育で入校した場合、一人一人に個人面接をしている。その中で今年度入校した２人の女性職員と個人面接をしたときには、一人はすでに専門学校において救急救命士の資格を取得し、目的を持って入っている。もう一人の職員についても甲府消防本部の採用であるが甲府には女性職員の先輩がおり、先輩の姿を見ながら女性でも活躍できる場を求めて一生懸命やりたいという希望、意見としてあったので、そういう意味では消防職員になろうという女性職員にとっては、自分の目指す方向性というかライフスタイルを学生時代から見きわめながら、自分で勉強して入ってくる。それから学生時代にいろいろなボランティア活動を通じて消防職員に関心を持って入ってくるという意味では、救急時にお年寄りに声をかけたり、体を触ってもらったりするには女性のほうが適していると思われ、女性の活躍の場大いにあると思っているので、学校としては、多くの女性職員に入校してもらえるよう環境整備に努めている。

問）　消防団員の確保には苦慮しているようであるが、消防団員は、県内にどれくらいいるのか。

答）　１万５，０００人である。

問）　消防団の研修の受講者数について、従来９００人前後であるとの話であったが、設備が充実することから、消防団員がどれくらいのローテーションで研修を受けるのか。また、どのようなカリキュラムを考えているのか。

答）　消防団員の方は仕事を持っているので、土日に教育訓練を組んでいる。明年度実する教育訓練は、全て土日に実施するものである。消防団用の案内をホームページを通じて事前教育ができるという環境を整えている。

問）　一人の団員がどのくらいの回数を受けられるのか。また、山岳、水難と新しい施設ができているが、カリキュラムはどうなるのか。

答）　消防団員については山岳救助訓練、水難救助訓練はなじまないというか消防職員向けの訓練施設であるので、消防団員については、消防団員として基礎的な操法を中心とした消火訓練や救助資材が新しくなるため新しい資機材を使って幹部向けに総合訓練棟の迷路訓練室や燃焼実験室も使用しながら困難な訓練も一部導入していきたいと考えている。

※ 消防学校講堂で説明・質疑を行った後、建設中の施設を視察した。

（２）【意見交換会】

①　出席者
　　富士五湖地域防犯ボランティア協議会構成団体代表者

②　内容
　ア　意見交換会
　　「安全・安心なまちづくりについて」

　主な意見

議　員）
　継続させていくためには、輪を広げ、連携していくことが非常に重要であるが、何か取り組みをしていることがあれば教えてほしい。

出席者）
　　年配者が多いので、孫やひ孫のために協力してほしいということを前面に出して協力をしてもらっている。

議　員）
　　継続していくための方法や会員をどうやってふやしていくこと、また、このボランティアのグループを広げていくことが大事ではないか感じているが、ほかの地域のボランティア団体との交流もやっていいったらどうかと思うがどうか。

出席者）
　　最近老人クラブ連合会ができた。各地区の老人クラブが一緒になって連合会をつくったが、富士五湖地域防犯ボランティア協議会に入っているのは、我々の老人クラブだけであるので、これを連合会として何とかならないかということで、来月警察にも来てもらい研修会を開催し、連合会として協議会に入ってもらえないかの話をする予定である。それが決まれば大きな団体になり、地域全体に防犯意識が高まると考えている。

出席者）
　　お願いになるが、テレビや新聞で危険ドラッグが取り上げられ、各県の議会で議論して規制を強くするなどの報道もされているが、山梨県議会では報道等がされていないが、条例をつくるような話はあるのか。
　　毎日のように事件や事故が報道されており、売る方も買う方も取り締まる必要があるのではないか。

議　員）
　　犯罪行為になり、国の法律が上位法になる。県でも警察、県の組織で衛生薬務課という課があり、そこでいろいろな研究をして規制をどうかけようかということで、危険ドラッグの話も相当出ており、これから国の動向を見ながらであるが、そういう方向に行くと思う。法が上位で条例は山梨県の中でしか効力を発生しないものであることから国の法律が決まってくると進んでいくことになり、警察としては警察で動いている。
　　危険ドラッグについては、何年か前に一般質問をしたことがあり、その頃は販売店が３軒あると言われていたが、今は規制をかけて閉鎖していきている。議会でも我々が所管になるので、一生懸命対応をしているので、できるだけ早く頑張っていきたい。

出席者）
　　神戸の事件のあと、テレビで、静岡県での防犯の取り組みのケースを紹介していた。私の知る限り県内の防犯教室というと警察の方が来て劇をして、「いかのおすし」という流れのものが多いが、静岡では警察ではなく、私たちのような防犯自主、防犯活動団体が学校に行って、実際に「こんなケースでは大声を出してみよう」と言って大声を出させる練習や逃げる練習で、逃げ切れないとき

はランドセルを捨てて、走って逃げるようにというような指導をしていることが放送されていた。それを見て自分たちでもそれができるようになればと思ったが、どこで訓練してもらえればできるようになるのかわからないと感じた。子供は本で読んだり話で聞いたりするよりも体で体験したことが残っている。本当に不審者ができた場合には、怖くて防犯ブザーも抜けなかったりする子もおり、体験型のものができるようになってほしいが、どこにお願いすればいいのか。

議　員）
今ここで、ここへ行ってということは言えないが、調べて連絡させていただく。

出席者）
交流という話もあったので、交流する機会、静岡県へ視察に行くとか、トレーニングさせていただくとかができればいいと考える。

議　員）
日々活動している中で、今まで危険な事犯とか具体的なことがあったかどうか聞かせてほしい。

出席者）
以前、パトロールをしていたときに保育園近くの駐車場に何日も同じ車が駐車していると仲間から通報があり、確認したところ保育園の先生も気づいており、車の中を見ると寝具が置いてあり、車の中で寝泊まりしているようであったため、役場に連絡し、車の持ち主が来たところで事情を聞き、移動してもらったケースがある。

出席者）
子供がということであるが、この地域でも「声かけ」は発生している。顔もわかっているが、今朝も声をかけている人が一人おり、朝会うがその人にも「おはようございます」と挨拶をしている。周りが「あの人は」と思っているが、警察としても実際に声をかければ指導はするが、それ以上のことができないということが現実である。ニュースで事件になったものを見るたびに、私たちの地域にもちょっと変わった人はいるが、事件にまでならないため、どうしたらいいのかということが、ものすごく難しいところである。何かの事件をきっかけに後から振り返えると、「おかしかった」、「変だった」と言えるが、今の時点で何ができるかというと、普通の人と同様に挨拶をするくらいしか方法がなく、今日も一日無事でありますようにと思いながら挨拶をすることしかできない。

議　員）
警察に聞くと防犯意識の高い地域は、犯罪の起こる率が低い、犯罪者も犯罪を起こしづらいということのようである。この地域にはこのような防犯ボランティア組織が３７団体あると聞いており、大きな貢献をしていると感じている。話を聞いていると、団体ごとにいろいろな形での取り組みを行っているようであるが、協議会の中で、定期的に集まって、情報交換をするようなことはあるのか。

出席者）
月一回執行部会というものがあり、成果を発表したり、議論をしている。

議　員）
小中学校とボランティア団体との連携はどのようになっているのか。

出席者）
我々の会では、学校の先生の人事異動があるため、４月の初めに顔合わせをしている。会っても「あの人は誰だ」ということになっては困るため、学校に行き学校の年間の行事予定を数カ月間ごとに更新してもらい、それをもとに帰宅時間に合わせたパトロールの時間を設定したりしている。

出席者）
先日、ある地域に行ったときに小学校の生徒の下校時刻に「今から小学生が下校するので、地域の人は御協力をお願いします」という放送があった。これは地域のネットワークになるのではないかと感じた。

出席者）

子供の通学路で新倉の南線が供用開始になるが、トンネルから出た最初の交差点に信号の設置をＰＴＡとしてお願いしたことがあるが、信号の設置は難しいという話であった。事故が起きないと、警察や行政が動いてくれないが、児童の通学路であるので、安心・安全を確保するためにも事故が起きる前に取り組みをお願いしたい。

議　員）

地域でも課題になっている場所で、その声はよくわかるが、トンネルからの旧市立病院の交差までのところの距離が短すぎるということで、難しいような話は出ていると承知している。

出席者）

交差点の話であるが、鐘山苑の下の鐘山通を子供たち横断するが、横断歩道の位置が逆になっており、子供たちは横断歩道のないほうを毎日渡っている。これは、警察も呼んで話をしてあるが、いまだに直っていない。

※山梨県富士吉田合同庁舎において、意見交換会を実施した。